

●ゴミ問題の学習会

27 日(日)京田辺市の中部住民センター・セセラギで行われ 39 人の参加がありました。近年プラスチックごみが海の貝や魚から検出されている報道がされて、関心が高まっています。木津川河川レンジャーがこの問題を取り上げ、講演会がありました。大阪商業大学の原田禎夫教授がお話をされました。里山の会からは播川理事長をはじめ多くの皆さんが訪れ満席でした。事務局会での感想を話し合いましたところ、食物連鎖の頂点に立つ人間にも影響が出ているのではないかと(精子の減少への心配)、食塩にも含まれている、世界の水道水からも検出されているといった発表にショックを受けましたということでした。また東京湾のイワシの 7 割、琵琶湖の魚の 4 割からも検出されているなどは、陸ゴミが大きく影響しているとのことでした。海の問題ではなくて、陸上の生活者・人間による汚染が源であるとのことを学んだ。との発言がありました。

こうした影響が、はっきり人間に現れて、プラスチックごみが原因であると究明が行われているが、まだその段階ではないとのことでした。しかし、それが証明された時には、「時すでに遅し」ではないかといった深刻な感想もありました。川のゴミ、陸上のゴミが目に見えないほど小さくなり、最終的に人間に蓄積されてきている事実は存在しています。これまで美しくするためにゴミの回収清掃整理を行うという目的から、清掃行動の意義がさらに深く高められたい講演会でした。

●カスミサンショウウオ池にアライグマが出現

設置(21 日)したカメラが自動撮影し成果が出る。地域力再生プロジェクト事業交付金を受けて生息池に忍び寄る生き物の撮影を行うべきとの指導助言を数年前から桜谷先生よりいただけてきました。ところが里山の会ではこれを扱える技術者が見つからず、延び延びになっていました。

このままではダメ元の覚悟で 30 年度の交付申請を行いました。絶滅寸前種に指定され、「絶滅の恐れがある生き物」と京都府が指定を行い、その発見に尽力してきた里山の会が保全管理の指定を受けてきましたので、今年こそはと覚悟を決めました。昨年の 1 月 6 日に民間団体のご協力の実現して水温や気温、水位の測定を一年間測定実施できました。このままでは里山の会の名折れになると、考えていた矢先、太田さんが、これの対策に大変興味を持っていただき、測定器の機種選定から、設置や記録の取り出しまで一貫して担当して、記録の取り出しも可能とのことで一挙に事態の課題が解決して、取り付けにたどり着きました。

既にニュースでお知らせしましたように昨年末 12 月 25 日に、かねての危険であったナラ枯れ巨木の伐採を実行し、測定観察作業の危険度が一挙に解決し、その残木の整理や処分を行い簡易通路の確保を 1 月 21 日に 8 人が終日行い、その日の夕方に太田さんがすでに購入し試行を重ねておいた測定器と、温度に反応して自動撮影できるカメラ 2 台を設置していただきました。その後、数日間状況を把握に訪ねていただき順調な運転を確認いただきました。そして設置 5 日目の夜(26 日)と翌日にアライグマが撮影されました。それも見事に想定した生育池周辺での行動でした。このまま放置すると産卵した卵囊も成体に成長した親も食料にされてしまう危険が想定される写真です。直ちに京都府自然環境保全課に写真を送付し、電話で対策を依頼しました。間髪をおかず、京都府から京田辺市農政課又は環境課に実態が伝えられ、対策として捕獲檻の設置を行なうことと、その監視点検を京田辺市が 2 週間実行するとの対応がされることになりました。その後は里山の会や地主が管理いただきたいとの連絡がありました。翌日 30 日の午前中に地主さんの立会いの下に京田辺市によって捕獲檻の設置が行われました。

●木津川希少種植生調査管理業務 除草作業完了する

15,000 平方メートルに拡大し、管理場所も 27 カ所から 36 カ所に広く多くなりました。そして木津川に中聖牛の設置が新たに加わって、作業量もかなり大きくなり、昨年度のように実績を積み上げることが出来ませんでした。除草は年度末には完了したのですが、集積や運び出しは計画通りにはすすめられませんでした。年が新しくなった 1 月になりましたが、予定してきた除草と集積運び出し、そして焼却処分まで

の作業を完了できました。社員をはじめ理事各位には、この間いくつものアクシデントを乗り越えて作業を推進していただきました。特に正月に入るとインフルエンザが蔓延し、休校や学級閉鎖が行われる昨今の中、皆さんが本当にご尽力いただきました。力を合わせて頑張ってくださいました。中聖牛や竹蛇籠の製作などで発揮した力が本物であるということを示していただいたことになります。各位の困難を乗り越えて本当によく頑張ってくださいました。ありがとうございました。

●整備金負担駐車料金に基づく臨時駐車場の除草作業 90%完了

月が替わり 2 月には 36 回目の京都木津川マラソン大会が 3 日後に迫りました。今年の里山の会は通常準備作業や当日の作業に参加することなく、里山の会独自で選手輸送と駐車場の運営を行うことになりました。

現在の整備金負担駐車場の利用申し込みは昨年をはるかに多くなる見込みです（昨年 200 台を割り込んでいました）。昨年並みの準備を超えて、今年は播川理事長を責任者に、全力を発揮して取り組みの強化と改善を計っています。例えば当日の駐車利用申し込み者は、従来通り伊藤さんが責任者をする当日受付（京田辺市市役所前）で駐車許可書を受け取り指定場所に移動しますが、東駐車場や南駐車場との連絡がスムーズに働かず、そこそこの見通しや間隔で運営してきましたが、トラブルは発生しませんでした。この点を改善するために東駐車場も南駐車場も駐車指定番号の発行を渡し、リアルタイムで駐車台数の把握が可能になる改善を行います。また、駐車場では、白線を引いて指定番号を取り付け、指定番号場所に順次駐車することになるので、場内整理が行いやすくなり、リアルタイムで残数や余裕台数が解り、全体把握が行いやすくなります。このように合理化や改善を図り、余分な人件費の削減が図れるのではないかと思います。大いに知恵を発揮してより良いスムーズな運営に努力改善したいと思います。そのほか各部署で活動していただく皆様の改善意見が寄せていただけると幸いです。

前々日は雨天が必至といわれ、当日も雨が少し心配ですが、数少ない制限時間のない唯一の大会が無事故で終了できるようご奮闘をお願いいたします。

●地域説明会が最終確定

地域説明会の準備で最も遅れていたのが、井手町勤労者福祉会館で映写する井手町図書館所蔵の「南山城水害」のビデオの借用でした。町役場の方針は町内の方々には借用許可が出せるが外部者には貸し出しが出来ないとの方針であると、借用に大きな課題がありました。ここのクリアに悩みましたが、多賀地区の北部の区長を務めておられた本会の監査役の武田稔さんの尽力で借用が可能になりました。最大の課題が解決できました。近年全国各地で台風や集中豪雨によって洪水被害が引き起こされて水害に対する関心が高まっています。今回の上映は南山城地域で最大の犠牲者が発生した大災害から学ぶものは多くあります。ぜひご覧ください。336 人の命が奪われました。

●二月に入れば恒例の里山展が 2 月 13 日（水）から 17 日（日）まで

京田辺市中央図書館ギャラリー「かんなび」で開催。今年は蛇籠の展示では 3 本を積み上げル予定です。また中聖牛の分りやすい模型も展示する予定です。